

法華コモンズ通信

法華コモンズ仏教学林事務局

192-0051 東京都八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 番号 ⇒ 042-627-7227
ブログ <https://hokke-commons.jp> /メールアドレス hokkecommons@gmail.com

巻頭言

巨人の肩に乗ったつもりで

法華コモンズ仏教学林 事務局 神藏 寿観

法華コモンズで配信スタッフを務めています神藏寿観と申します。八王子の法妙寺をお預かりしているものです。今回の巻頭言では、研究者ではない私が、なぜ配信スタッフとして関わるようになったのかを、私の学生時代の思い出を交えながらお伝えしたいと思います。

私は学生時代、信州大学人文学部比較哲学科に所属していました。天台学の研究者の故丸山孝雄先生が教授である比較哲学科を選んだのは、高い志があったからではなくお寺の生まれだからという軽い理由からです。そんな私ですから、親元を離れたことを良いことに糸の切れた凧のように、講義にも出ず研究室にも顔を出さず、アルバイトや芝居に没頭し、まともに仏教と向き合わずにいました。

そんななか、諸般の事情でお寺を継ぐことになりました。継ぐ為には卒業しなければならず、これには卒業論文を書かなければならない。そこで比較哲学科の研究室に籠もることにしたので。研究室での日々は充実し、自分なりに満足のいく卒論を書きあげられました。しかし所詮は付け焼き刃で丸山先生から「着眼点は良いが、文献を読む量が少なすぎる」と、厳しい講評を頂いたのです。普段は温厚な先生その時の厳しい表情が今でも忘れられません。その経験があり、卒業後編入した立正大学では真面目に勉強したのですが、卒論の講評で指導教官の庵谷行亨先生から同じ指摘をいただいたのです。「一を聞いて十を知ったつもりになり、満足してしまう」という自分の性格を痛感しました。

八王子に戻った後、事務局の澁澤さんからご案内いただき法華コモンズのことを知りました。講義に足を運ぶと、比較哲学科の研究室で感じた知的な興奮や喜びが蘇り、「もっと知りたい」と思う



のですが、根本的な性格は変わらず、興味が湧くだけで満足してしまうことが多く、あまり参加しませんでした。しかし、自宅で講義を受けられるならばこの性格でもなんとかやってみようではないかとオンライン配信の開始を心待ちにしていました。コロナ禍を機に法華コモンズがオンライン配信を導入し、竹内さん、林さんのビデオ配信スタッフに加えていただくことになったのです。



とはいえ、配信の準備を終えると、知った気になってパソコンから離れてしまうことが多々あります。あと二年で還暦を迎える私の「知った気になる」性格はもう変わりそうにありません。しかし、触れることがなければ、そもそも知った気にすらならない。先人たちの偉大な知に触れられる場にいることで、より良く「知ったつもり」になることが出来ます。私にとって法華コモンズは、まさに巨人の肩の上に立った気持ちになれる大切な場なのです。

情報技術の発達により、多くの知を簡単に手に入る時代です。しかし、その知に触れることがなければ、それが存在しないことに等しいといえます。それ故、先人の知を学び、議論できる場がリアルでも仮想空間でも存在することが大切なのではないでしょうか。そしてその場を維持し、継続していくことが、新たな歴史を紡ぐことにつながるのです。法華コモンズがこれからもそのような大切な場であり続けることを心より願っています。

講義報告 連続講座 前期六回

法華仏教講座

【第一回 花野充道先生】

法華コモンズ仏教学林が法華仏教を学ぶコモンズに共有地としての意義をことさらに大切に、所属組織の垣根を越えて各界の著名な先生、新進気鋭の先生に連続講義を担当して頂いているのが本講座であり、令和七年度前期で十回目の連続講座となる。

その第一回は当学林の教学委員でもあり、法華仏



教研究会主宰の花野充道先生から「日蓮における五義判の形成と展開」の題でご講義を頂いた。

はじめに五義判に限らず、あらゆる教判の形成を研究するにあたって日

蓮遺文の真偽研究が基礎となることが語られた。その前提として仏教学・思想史学としての客観的、学術的な手法から日本仏教を研究するために日蓮遺文を利用する事と、祖師を絶対化する宗学・宗史を確立するために日蓮遺文を利用する事の違いを述べられ、その違いによって真偽研究に大きな影響がある事を解説された。

特に疑義が残る遺文について決着のつきにくい真偽論を続けるより、真蹟確定遺文のみを使って「純粹な日蓮の教義」を取り出そうとする手法が、恣意的に日蓮遺文に含まれる中古天台思想を疑義濃厚として排除する手法に変化したことに大きな問題があると提起された。

このような事が起こった前提として、日本仏教の研究がそれぞれの祖師を絶対視した宗学を中心とし、「日本仏教」として相対化された学問にならず、それぞれが独立してお互いに批判を受け容れない形で成立してきたことを指摘された。また、島地大等先生、家永三郎先生、田村芳朗先生、末木文美士先生と同様に思想史学として日本仏教の研究を行うことの大切さを説いた。

続いて駒澤大学の批判仏教、本覚思想とその定義

大崎ルールなどの語について説明され、特に大崎ルールの問題点として撰折論争について触れ、真蹟現存遺文だけで導き出された「確実な日蓮の思想」が必ずしも「真実の日蓮の思想」にはならない例として解説をされた。またこの撰折論争から派生する「現代に生きる我々がどのように行動をするべきか」という問題について新聞掲載の紙面を紹介しながら貴重な示唆をなされた。

特定の用語が含まれる遺文を疑義濃厚として利用しない手法について、一般的な科学的手法から乖離している事を述べながら、その上で日蓮の五義判の初出についての仮説の問題点を指摘された。

次に近代科学の基本について「実証主義」「反証主義」を説明され、デカルトの「方法的懐疑」について解説された後、ただ懐疑によって旧説を破壊する2だけでなく、「伝承に基づく仮説」―「反証に基づく仮説」―「再反証に基づく仮説」というプロセスによって研究が進歩していくとし、反証可能な偽撰の仮説を三つあげて解説されたり、池田令道先生との『立正観抄』についての論戦をあげて説明された。

ここまで真偽研究とその手法について語った事を受けて、従来の『教機時国鈔』で形成されたとする説に一石を投じた山上弘道先生の研究について述べられた。さらに、関連遺文の系年説をわかりやすく列挙して、また『昭和定本』の系年と、『日祐目録』の「御書」の項に有るものを真蹟とみなす従来の説についても同様に整理された。その上で従来説が『立正安国論』の奏進を起点として、迫害を被るた

びに国師の自覚が深化・展開していったことがわか

る」と思想的にまとめられた。
二時間半にわたる熱のこもった解説と、その後の質疑応答も含め、大変貴重なご講義を頂き、スタッフ一同感謝申し上げます。

(竹内敬雅 記)

【第二回 川崎弘志先生】

前期第二回は、五月十日、法華仏教研究会編集委員の川崎弘志先生を講師にお迎えし、「写本で伝えた日蓮の御書における真偽と系年―『守護国家論』の系年を中心に―」の題でご高説を賜った。

本講義では、『守護国家論』を中心に、『武蔵殿御消息』『十住毘婆沙論尋出御書』『災難興起由来』『災難対治鈔』『立正安国論』、また、関連して、『像法決疑経等要文』『念仏者追放宣言事』『安国論送状』等に関して、述作の経緯や系年について、詳細に検証された。

川崎先生は、『常修院本尊聖教事』『本尊聖教録』以来の所見、今日までの研究史をすべて取り上げて逐一検証され、時に、『撰大乘論釈』『十住毘婆沙論』借用の問題にも目を配りながら、掘り下げた考察を進められた。

更に、その検証は、

御書のみならず、時に、『五代帝王物語』『皇代略記』『日本暦日原典』等の資料をも駆使するもので、実に幅広い丹



念な情報蒐集に基づき、厳密な分析と検証を披露された。

然も、以上のような膨大かつ難解な内容を、川崎先生は、パワーポイントを有効に使用しながら明快に講義され、その様には、一同唸らされた。

講義終了後も、聴講者からの質問に丁寧に答えてくださり、受講者にとって至福の二時間三十分となった。

(布施義高 記)

【第三回 土倉宏先生】

法華仏教講座第三回となる土倉宏先生の「安然における円密一致思想の特徴」が、去る六月二十八日(土)に開催された。土倉先生は、本学林の前身となる本化ネットワーク研究会でも第六五回に「日蓮と安然」のテーマでご登壇頂いたことがあるが、今回は、日本天台の台密教学の大成者である安然の「円密一致」思想をテーマにしてのご講義となった。

円密一致思想とは、法華経(円教)と大日経等(密教)が同等で一致するという台密独自の教学であり、この難解なテーマを五つの項目を立てて詳しく解説して頂いた。

第1項「安然・五教説における円密相違と円密一致の事例」では、安然の『菩提心義抄』を引き、化法四教の藏・通・別・円に密(密教)を加えての五教の視点から円教と密教の相違を観ると共に、円教の止観行と真言の三密行の意義を同等として、「円密一致」を観ていった。そして第2項「⑧文における円密一致(事理同、理同、初聞以上・初心以上、等



の検討)では、『仏性論』や『大乘起信論』の「心真如門と心生滅門」を導入して、第2項の引用文を詳細に説明された。その上で第3項「円教

義の「心真如門・心生滅門」を本質とした円密一致の発展系②⑥文を中心に(八識、九識、十識)では、安然が円密義として「九識」を立て、『釈摩訶衍論』を参照して「清浄本覚の一心一心識として第十識」を立てていく次第を説明された。

そして第4項「伝法聖者闕略義と円密一致(初住以上―事理俱密の同)」では、第1項での円密一致の理屈(『法華経』には三密行が書かれていないが、円3の止観行と密の三密行は同じ)とは別の理屈で、「伝法聖者闕略義」という考え方が示された。それは、もともと『法華経』には三密行が書かれてたのだが、『法華経』を伝えた聖者がその三密行(義)の箇所を欠略させた(書き落した)という考え方である。そして、最後の第5項「安然と日蓮」では、この安然の「伝法聖者闕略義」的発想が日蓮の「文底の一念三千」の考え方に影響を与えているとして、『註法華経』上巻に『菩提心義抄』を引いている箇所を典拠として示すなど、安然の円密一致思想にたいする日蓮の関心の所在を論じて頂いた。

教学的レベルが高い「円密一致の思想」だったが、土倉先生には実に詳しいレジュメを分かり易く説明して頂き、その特徴や日蓮聖人に与えた影響も学ぶ

ことが出来て、たいへん画期的で充実した講義となつた。
(澁澤光紀 記)

【第四回 坂井法暉先生】

去る令和七年七月五日、法華仏教講座第4回、坂井法暉先生をお招きして「千葉一族の信仰と富木常忍の周辺」講義が行われました。

坂井先生には二〇一八年、二〇二三年にもご講義いただき、毎回非常に興味深い内容をご披露いただいているのですが、今回は富木常忍と、彼の仕えた千葉一族の信仰面から解説いただきました。

まず千葉県の特色としては、やはり日蓮系の寺が他の都道府県と異なり天台系よりも多いことが挙げられることから始まりました。また現在の千葉県の元となった上総、下総、安房の位置関係を地図上で確認いただき、続いて下総を支配した千葉氏の家系を桓武平氏からの流れで詳細に説明いただきました。そして千葉氏の家督が下総権介に任じられてから千葉介(ちばのすけ)という称号になり、千葉氏になったとのこと。一族の中から寺門派の僧侶が出たり、嫡流にも関わらず元寇の役により肥前千葉氏として分かれた中から日蓮系僧侶も輩出しつつも、本流は



浄土系の信仰の家系であったことを示されました。また千葉氏が富木常忍をスカウトした場所、また富木常忍が日蓮聖人と邂逅された

場所が京都ではなかったかとの論拠を示されました。富木常忍は平安時代から儒教の論語等を教授した明経博士の家系であり、京都の六条若宮の再建に上京していた際、因幡国出身の富木蓮忍(常忍の父と比される)・常忍親子を文筆官僚としてスカウトし、天台僧として京都に滞在していた日蓮聖人と邂逅していた説が近年立てられているとのこと。

さらに、富木常忍が日蓮門下でありつつ浄土信仰の強い千葉氏に仕えつつ他宗派にも当然ながら公平な訴訟の処断をしていたことなどを示されました。

他にも千葉氏の子孫には日目上人以外にも大石寺門徒になった者があることや、日蓮系と浄土系で神祇信仰の差異(前者は内包、後者は否定)、稲荷神社の別当を富士福正寺住職が務めるなどの文書の発見など、非常に興味深いものでした。

坂井先生の深い研究に感銘を受け、先生の今後の更なる探究に期待しております。(林明彦 記)

講義報告 連続講座 前期全四回

「仏教哲学再考②」

『大乘起信論を手掛かりにIV』

講師 末木 文美士 先生

報告 佐古 弘純

末木文美士先生による講座「仏教哲学再考②」『大乘起信論』を手掛かりにIV」が開催された。本講座は全二十回を予定している。前期からは『釈摩訶衍論』(以下『釈論』)を主題におき、最先端の研



究を踏まえ、講義が行われている。

第十三回目の講義は、『大乘起信論』(以下『起信論』)と『釈論』の思想が、近代に至るまでの日本仏

教に与えた影響を検討する内容であった。

はじめに、『起信論』から法蔵(随縁・不変真如)へ、そこから澄観(華嚴)・湛然(天台)・『釈論』への展開を再確認した。そして、近世の鳳潭が従来の起信論理解(法蔵)への原点回帰を主張したことで、近代の『起信論』重視(原坦山、村上专精、鈴木大拙等)へと繋がっていきのではないかと述べられた。さらに、思想内容の見通しとして、先生は「日本では『起信論』で説かれるような如来蔵をあまり重視せず、『涅槃経』の仏性説が前提となっていく」ことを指摘された。

続けて、仏性説については、「最澄と徳一の三一論争、良源と仲算の応和の宗論以降は議論されず、それ自体問題化されることが少なくなる。そして、可能性(如来蔵的)としての仏性よりも、すでに実現しているとする真如論へと発展していく」ことを明らかにされた。また、如来蔵批判については、「日本仏教は基体説として認められるが、如来蔵縁起ではなく真如縁起である。日本ではインドの中観と唯識を権大乘に位置付け、その上に実大乘としての理論を展開しているため、インド仏教の理論と日本仏教の理論は根本的に性格が違う」と詳説された。

次に、末木著『近世思想と仏教』（法蔵館、二〇二三）を参考に、近世初期の不干斎バビアン『妙貞問答』、林羅山と松永貞徳の『儒仏問答』、鈴木正三『因果物語』、近世中期の増穂残口『神路之手引草』、『神国増穂草』、『艶道通鑑』、新井白石『鬼神論』、近世後期の服部中庸『三大考』、平田篤胤『鬼神新論』、『靈能真柱』、六人部是香『顯幽順考論』を取り上げ、近世における三世両重の因果説（仏教）と来世否定論（儒教）について解説された。

最後に、近代で靈魂論が問題になった原因について、末木著『靈性の日本思想』（岩波書店、二〇二四）を参考に、加藤弘之『清沢満之の三世因果論争』（哲学雑誌）、清沢満之『宗教哲学骸骨』、井上円了『靈魂不滅論』、南方熊楠と土宜法龍の往復書簡、高橋五郎『靈魂實在論』、妻木直良『靈魂論』を取り上げ、キリスト教の靈魂不滅論と唯物論の靈魂否定論に対する仏教側（本来仏教は靈魂という言葉を使用しない不利な状況）の解釈を示され、講義終了となった。第十四回目の講義は、「空海と『積論』」を主題にした内容となった。はじめに、今までの復習として、『起信論』と『積論』の相違点を解説された。『起信論』は、二項対立図式を基本としながら三項図式（三大、如来蔵・無明・阿梨耶識、本覚・始覚・不覚）が加わっているが、『積論』は『起信論』の体系を組み込みつつも、それを低く位置付け（後重）、二元論（真如・生滅）を超えた一元的絶対原理（前重）をも超えての、門なき法門因縁無き果である不二摩訶衍を頂点としていることを示された。

続けて先生は、『積論』は、因縁を超越した、言

葉では表現できない世界観として不二摩訶衍を立てている。一方、空海はその超越性を認めながらも『積論』を顕教に位置付け、密教では法身説法としてその世界観を言語化できるとしている。さらに、安然に至っては、真如を不二摩訶衍化（真如の一元化・絶対化）して理解し、不変真如と随縁真如という概念が入ってくる」と指摘された。

最後に、空海の著作を、(1)教判に関するもの（『弁顕密二教論』『十住心論』『秘蔵宝鑰』）、(2)教義に関するもの（『即身成仏論』『声字実相義』『卍字義』）、(3)經典解題など（『般若心経秘鍵』など）の三つに分類して、『積論』が用いられる『弁顕密二教論』に焦点を当てた。その中で該当する箇所を確認して、詳細に解説され、講義終了となった。

第十五回目の講義は、前回に引き続き「空海と『積論』」を主題にした講義となった。はじめに、先生は、『空海の『起信論』理解は、『積論』を通して読まれたものであり、如来蔵説が基になっているわけではない。むしろそれを乗り越えようとしているため、『積論』を中心に考えなければならぬ」と指摘された。さらに、松本史朗氏（『縁起と空』大蔵出版、一九八九、六七頁）の基体説（超越的基体が諸法現象を生む）と縁起説（超越的基体を否定、諸法現象の時間的縁起のみ在る）の図式を用いて、その縁起説を正当とする初期仏教の理解を評価しつつ、「日本仏教にみられる基体説の理解を深めることも重要だ」と述べ、「空海はその超越的な基体を不二摩訶衍と捉えて、さらにその先にある世界を明らかにしようとしていた」と説明された。

続けて、永井晋氏の『顕現しないものの現象学——生命・文字・想像界』（ぶねうま舎、二〇二五、一四九頁）の一即多を三層構造で示す図（①顕現しないもの①、②その表れ②多・中間界、③知覚可能な地平世界）を参考に、地平的世界（天地・被造物）↓想像力の働きによる多様なイメージ↓唯一の实在（神・生命・他者）そのもの、という過程を見る現象学の捉え方は、唯一の实在そのものを「不二摩訶衍」として、それが「法身説法」として説かれるとする空海の思想と近い考え方であることを示された。そして最後に、空海『弁顕密二教論』に見られる『積論』の引用を解説され、講義終了となった。

第十六回目の講義も「空海と『積論』」を主題にした講義となった。はじめに、前回に引き続き空海『弁顕密二教論』に見られる『積論』の引用を解説された。空海は、言語化できないとする『積論』の説（自性法身不二摩訶衍）に対し、説かれえない仏の世界が法身説法をもって表出できるとして、密教の優位性を主張していたことを示された。さらに、『秘蔵宝鑰』と『十住心論』における『積論』の引用を示し、九顕一密（顕密の優劣）と九顕十密（密教への統合）といった密教の位置づけの際にも空海が『積論』を使用していることを解説された。

続けて、末木著「本覚思想をめぐって」（『鎌倉仏教展開論』、トランスビュー、二〇〇八、所収、七五頁）を参考に、『弁顕密二教論』『秘蔵宝鑰』『十住心論』などに見られる「本覚」は、必ずしも密教の最高段階には位置づけられていないこと、他方、

『大日経解題』『金剛頂経解題』などにおいては最高の法身仏やあるいは諸仏を統合する原理として「本覚」の語を用いていること、などを指摘された。

最後に、来学期は①空海の「本覚」論と『釈論』、②最澄の「真如」論と『起信論』、③安然の「真如」論と『釈論』、④その後の『起信論』と『釈論』、をテーマに行う予定であることを聴講者に述べ、講義終了となった。

今回の開催は十月を予定しております。新規聴講もまったく問題ありません。先生は聴講者に対し、分かりやすく解説して下さいます。最先端な知識を拝聴できる貴重な機会になることは確実です。皆様はリモート開催となっております。講義動画も受講者に配信し、期間内であれば何度でも見ることが可能です。詳細につきましては、「法華コモンズ」ホームページからご確認ください。

講義報告 連続講座 前期全六回

『法華経』『法華文句』講義

講師 菅野 博史 先生

報告 澁澤 光紀

菅野博史先生の「『法華経』『法華文句』講義」は、この七月で通算八六回となりますが、ここでは本年度の四月から六月までの講義（通算八三〜八五回）を報告します。

講義の範囲は、経文では「信解品第四」の「長者窮子の譬え」の段で「諸国を放浪して志が劣ってし



まい実の父さえ分
からぬ息子に、父
の長者は日々糞土
を払う汚れた仕事
を与えて、「これ
からは他所へは行
かずに私の子供だ

と、思って働きなさい」と励ます。やがて心の成長を遂げた子に長者は財産管理を任せ、子が一人前になった頃に自らの死期を悟った長者は、子に命じて親族・国王等呼び集めて、皆の前で「この子は我が息子で、私を捨てて家を去り、五〇余年も捜し求めたが偶然に家に戻り、全財産を管理している。この男は我が子であり、私は実の父だ」と述べるところまでです。『法華文句(III)』テキストでは七五五頁―一行目から、七七三頁の最後までが、その経文の解釈となります。

四月の講義では「長者窮子の譬え」を、アビダルマ仏教の蔵教での悟りとなる「三十四心断結成道」とその修行法を七項目に分けた「三十七道品」によって説明していきましました。

『文句』では、こうした瞑想と修行の実践が、窮子による「除糞の様相」に譬えられており、やがて窮子が父（仏）の全財産を受け継ぐ（成道する）という、悟りに至る物語になっていることを明かしています。講義は、科文では「五力に譬う」の「五つの過失がないのは、五力である」と述べられている段落で終了しました。

次は五月二六日の講義です。信解品の「長者窮子

の譬え」は、釈尊一代の教導を小乗から大乘へいたる階梯として示した「教相判釈」の元型になっています。今回の講義では、窮子が劣った小乗の位から徐々に後継ぎに相応しい大乘の位へと向上していく様子が、窮子の成長に合わせて釈尊一代の教導を示す乳味・酪味・生蘇味・熟蘇味・醍醐味の「五味」の教判により解釈されていることを説明頂きました。

六月三〇日の講義の始めは、テキストの『文句(III)』では七六七頁三行目「第二に、然其所止猶在本処」からで、子が完璧に全財産を管理しながらも、ものあばら家に住んでいた、というところです。

その後、長者は子が漸くに全財産（大乘）を知り尽くし大心を起したことを見て取り、また自身の死期が近いこともさとり、「親族・国王・大臣・刹利（武士）・居士」を集めます。そして、この窮子が6実の我が子であることを皆に告げるのです。

『文句』の解釈では、実の父子を明かす「父子の結会」を「大通智勝の因縁の如し」として、子である衆生達は過去に結んだ大乘の教えに背き、無明の闇の生死に逃れて（捨吾逃走）、六道輪廻をさまよった（五十年）末に、「忽ちに此の間に於いて偶たま会いて之を得たり」の通り、はじめて今日、感と応の道が交わった（『文句』七七三頁末行）、と述べたところで、講義終了となりました。

本講座は、菅野先生が用意される分かりやすいレジュメ（経文とその『文句』解釈の現代語訳、注釈など）のおかげで、初めて受講される方でもついて行けます。ぜひご受講頂き『法華文句』の随文釈義をお楽しみください。

法華コモンズ仏教学林 前期講座一覧

2025(令和7)年度 後期講座 開講:10月~2026年3月

●すでに終了した講義も、動画配信等で受講できますのでお申込み下さい●

- 仏教哲学再考② 「『大乘起信論』を手掛かりにV」 全4回 【オンライン講座】
開講時間：水曜日 午後6時30分~8時30分 講師：末木文美士
開催日：第1回(通算17講) 10月8日 第3回(通算19講) 12月3日
第2回(通算18講) 11月5日 第4回(通算20講) 1月7日
【受講料】1期4回分8,000円、1回2,000円
- 特別集中講座 「読経に意味はあるか—読経の歴史、読経の理論、読経の将来」 全2回 【対面&実況】
開催日時：第1講 10月4日(土) / 第2講 11月8日(土) 講師：大竹 晋
※午後1時30分~5時30分(4時間) 【受講料】2回分6,000円、1回3,000円
- 一日集中講座 「訓読成立史から見た聖徳太子『法華義疏』」 全1回 【対面&実況】
開催日時：12月6日(土) 午後1時30分~5時30分(4時間) 講師：石井 公成
【受講料】3,000円
- シリーズ講座 「法華仏教講座」 全5回 【対面&実況】
開催日時： 毎回・土曜日 午後3時30分~5時30分(2時間)
第1回 10月25日 「日蓮における「無始の古仏」考—「無始」とはいつのことか?」 講師：間宮啓王
第2回 11月29日 「日蓮教団諸門流の教学」 ※この回の会場は日蓮仏教研究所「学室」 講師：都守基一
第3回 1月31日 「法体折伏について」 講師：株橋隆真
第4回 2月28日 「真世界文化研究会を発足の目的と経緯について」 講師：田中壮谷
第5回 3月14日 「日蓮撰『注法華経』と安然撰『悉曇藏』の関係の考察」 講師：菅原関道
【受講料】1期5回分10,000円、1回2,000円
- 連続講座 「『法華経』『法華文句』講義」 全6回 【対面&実況】 講師：菅野 博史
開講時間：月曜日 午後6時30分~8時30分 【受講料】1期6回分12,000円、1回2,000円
開催日：第1回 10月27日 / 第2回 11月17日 / 第3回 12月15日
第4回 1月26日 / 第5回 2月16日 / 第6回 3月30日

【会場】新宿常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 電話03-3371-1797(寺務所)

【申込】受講講座名・氏名・住所・連絡先を明記して送付 ⇒ FAX: 042-627-7227

mail: hokkecommons@gmail.com / ブログ: <https://hokke-commons.jp/>

192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 法華コモンズ仏教学林 事務局

賛助会員一覽（敬称略）

※令和七年度分として

個人会員 ※1口 一万円

6口	小松 正学	1口	菊地 大樹
6口	松原 勝英	1口	間宮 啓壬
6口	中野 顕昭	1口	長谷川正浩
6口	持田 貫信	1口	互井 観章
2口	鍋島 真永	1口	澁澤 光紀
2口	菅野 博史	1口	成田 喜達
2口	国府田義昭	1口	久保田正尚
1口	西山 茂	1口	匿名 希望

法人会員 ※1口 五万円

3口	法音寺	2口	本妙寺
2口	東洋哲学研究所	2口	立行寺
2口	顕本法華宗什青会	2口	天龍寺
2口	持法寺	1口	妙法寺
2口	本國寺	1口	善生寺
2口	善龍寺		

◎皆さまの「賛助」ご支援に篤く感謝申し上げます。

法華コモンズ仏教学林では、本学林の趣旨に賛同して運営の維持に協力して頂ける「年間会員」を新学期時に募集しています。左記の要領にて受付けておりますので、ぜひご協力のほどお願いいたします。

【年間賛助会員 加入申込み】

- 個人会員 1年間1口（1万円）
- 法人・団体会員 1年間1口（5万円）

《お申込み年度の特典》変更点有り

- 1、個人会員で6口以上の方は、年度内前後期の全ての講座をご受講・動画配信視聴出来ます。

- 2、法人・団体会員では2口以上で、1口ごとに所属団員1名が年度内前後期の全ての講座をご受講・動画配信視聴出来ます。

●お申込み頂ける方は、次の内容を書いて、表紙

タイトルまたは7頁下にあるメールアドレス、ファックス、ブログからお申し込み下さい。

- ★ 個人か法人か、また何口かを明記する。

- ★ 名前、年齢、住所、電話、ファックスまたはメールアドレスを明記する。

●直接にご加入・ご支援を頂ける方は、郵便振込用紙にて通信欄に口数をご明記の上、同封の振込用紙か、下記の口座にてお振込み下さい。

【口座名】 法華コモンズ仏教学林

【口座番号】 001500-7-634712

「講座映像版」販売のお知らせ

○ 菊地大樹先生 「吾妻鏡」と鎌倉仏教」6回

○ 池上要靖先生 「初期仏教研究」6回

○ 菊地大樹先生 「歴史から考える日本仏教」

① 鎌倉時代を射程にいれて ② 《顕密問題》を考える

③ 日本宗教史の名著を読む ④ 鎌倉仏教史の名著を読む

※①～④まで各講座それぞれ6回の講義

◎ダウンロード版：価格一万二千元（消費税込）

全6回講義の動画ファイルとレジュームPDF

◎DVD版：価格一万二千五百円（消費税・送料込）

全6回講義のDVD6枚組とレジューム印刷物

◆詳細はブログ(<https://hoke-commons.jp>)参照。

■【本化ネットワーク叢書】 頒価一冊二千元+送料

○叢書(2) 『九識説』とは何か』

○叢書(3) 『本門戒壇論の展開』

法華コモンズ通信 第十五号

○発行日 二〇二五（令和七）年八月十五日

○編集発行 法華コモンズ仏教学林

○発行所 法華コモンズ仏教学林 事務局

一九二〇〇五一 東京都八王子市元本郷町二一九

【FAX】 042（627）7227